

第 2 回 地域コミュニティ活性化に関する懇談会 会議要旨

1 会議名称

地域コミュニティ活性化に関する懇談会

2 開催日時

令和 3 年 9 月 8 日（水） 10:00～11:40

3 開催場所

WEB による開催

（事務局、傍聴・報道席設置会場：広島市議会議事堂 4 階第 3 委員会室）

4 出席委員等

(1) 委員氏名

山川 肖美委員（座長）、山田 知子委員、打越 勲委員、大浦 史郎委員、
越智 正紀委員、金月 節男委員、久保田 詳三委員、西田 志都枝委員、
濱本 康男委員、坊 聡彦委員、牛草 賢二委員、神谷 恵司委員、
近藤 聿興委員、杉川 綾委員、高橋 博委員、中村 一彦委員

(2) 事務局

企画総務局 企画総務局長、地域活性化調整部長、地域活性推進課長
コミュニティ再生課長、地域コミュニティ活性化担当課長

（関係部局等）

危機管理室 災害予防課長

市民局 市民活動推進課長、生涯学習課長、スポーツ振興課長

健康福祉局 地域共生社会推進課長、高齢福祉課長

経済観光局 雇用推進課長

中区 地域起こし推進課長

教育委員会 育成課長

5 議題（公開）

(1) 現状と課題を踏まえた地域コミュニティにおける活動事例について

6 傍聴人の人数

0 人

7 会議資料名

- (1) 現状と課題を踏まえた地域コミュニティにおける活動事例
- (2) 第1回地域コミュニティ活性化に関する懇談会における委員の主な意見
- (3) 第1回地域コミュニティ活性化に関する懇談会会議要旨

8 各委員の発言の要旨

- (1) 現状と課題を踏まえた地域コミュニティにおける活動事例について

(山川座長)

- ・前回、事務局が課題を整理した上で説明し、その後委員から、それぞれの地区あるいは組織で抱えている課題意識や現状について話していただいた。
- ・それについて、事務局が分析していた課題ごとに分類して整理したものが参考資料1となっている。
- ・本日は、資料1にあるような課題ごとの分類に沿って活動事例について説明してもらい、各委員から、現状と課題、それに対しての活動事例とかヒントが一致しているかどうかという辺りを見定めるという作業になっていくと考えている。
- ・事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ・本資料の事例は、地域の取組全体の紹介ではなく、課題に対応させて、その部分を記載したものである。取組を進められている背景はさまざまであるが、論点を明確にして議論を深めたいとの考えで記載内容は絞り込んでいる。
- ・この資料に基づいてこれから議論を進めていただくに当たって、各委員には、各事例の「1 現状・課題」を踏まえ、「5 今後のさらなる活性化のための取り組みの方向性」、「他地区で展開する際のポイント」について主に意見をいただきたい。
- ・「5 今後のさらなる活性化のための取り組みの方向性」、「他地区で展開する際のポイント」について、行政が今想定する内容を書いたものになっているが、この懇談会の議論を踏まえ、必要な修正を行って、最終的には、これをブラッシュアップしてビジョンに盛り込んでいきたいと考えている。
- ・より多くの地域でこうした好事例のよいところを取り込んで取組を進めていただけるよう、不足している視点、他地区で取り組んでいただく際のポイントの漏れなどについての意見をいただきたい。
- ・なお、課題に対応するように記載内容を限定していることや、事例を見た方が他地域の取組として考えられることを避け、自分の地域でもやってみたいと促していきたいと考えていることから、地域名、団体名などは掲載していない。

(山川座長)

- ・各委員に意見をいただきたい部分の1点目は、資料の「5 今後のさらなる活性化のための取り組みの方向性」のところである。その中でも、特に共助の取組というのがそれぞれの組織においてできることであるため、この部分に関して、また、公助の取組として行政にしてもらいたい支援の部分に関して、原案として記載されている内容に加えるべき視点について意見をいただきたい。
- ・2点目は、「他地区で展開する際のポイント」に関連して、気付きや、記述の変更についての意見があればいただきたい。
- ・まず、課題区分1の団体運営について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

～課題区分1の説明～

(山川座長)

- ・それでは1－①から1－③までについて意見等があればいただきたい。

(久保田委員)

- ・各委員の意見を確認し、一生懸命皆頑張っているということを最初に感じた。ただ、役員の中には確かに頑張っている方もいるが、実際は頑張っていない役員も多くいる。
- ・いろいろ事業が前に進まない理由として、町内会に良い事例を提供しても、なかなか動けない、動かないということがある。
- ・現状の課題というところで、例えば、広島市は小学校3年生に届けるものとして、こういった資料(町内会、知ってるカイ?)を配って一生懸命町内会の理解を深めるように頑張っている。また、市民活動推進課では、こういった資料(町内会・自治会加入促進マニュアル)も作って、町内会に配って頑張ってもらいたいと伝えることをしている。
- ・このため、現状をしっかりと確認して、みんなが共有してからスタートした方が理解しやすいという感じがする。現状と課題がどれだけ整理できるかによって、次の方策が出てくるのではないかと思う。
- ・課題のところは、町内会の加入率の低下や、役員のなり手不足、高齢化社会になってしまったとか、非常に高まっている行政からの期待等々があり、この辺は町内会・町内会連合会が抱えている課題だと思う。
- ・あとは、現状についての理解を皆で共有できるような、その辺りからスタートした方がよいと、今はホップ、ステップ、ジャンプのステップのところから動いているという感じがある。
- ・例えば、町内会とは何か、町内会は本当に必要なのか、というところの議論があってもよいのではないかと感じたので、少し議論とは意味合いが違うかもしれないが、座長

の方で何かその辺りの整理ができないかと思った。

(山川座長)

- ・今いただいた意見はとても大切なことだと思う。
- ・第1回の懇談会でも町内会・自治会等実態調査に基づいた項目や自由記述等を資料として事務局が出している。
- ・その実態の共有、なぜこういうことが起きているのかということへの理解を深めること、またそもそも町内会がどのような役割を担う必要があるのかという整理がまだできていないので、その議論を深めていく必要があると思う。
- ・ただ本日はその点の議論をする準備をしていないため、本日は資料の事例を分析する進行とし、次回以降で町内会の在り方、あるいは現状を共有する時間を設けるということではいかがか。

(久保田委員)

- ・了解した。

(山川座長)

- ・事務局も次回以降にその点の議論を含めるということによいか。

(事務局)

- ・承知した。

(山田委員)

- ・団体運営に関係することで、気付きをお尋ねする。
- ・通常、活動事例紹介は実施地区・団体が明記されている状態で確認することが出来る。今回の資料ではその点を明記しないという事務局の説明だったが、そうすると資料の紹介事例に関する記載は、どの項目（1～5）まで実例なのかという点が気になる。
- ・もし今回議論すべき「5. 今後のさらなる活性化のための取組の方向性」までが実例であれば、「団体の方向性」そのもの自体は各種団体が、現状課題を踏まえて取組を実施し成果を検証したうえで総合的に導き出すものであって、当懇談会において「課題区分」のみを切り取って議論・方向性を検討するものではないと思っている。その点に違和感がある。
- ・団体運営の点からみれば、地域内の多様な団体による横串の連携組織があること、そして外部支援組織が存在することは極めて重要だと思うが、2つ抜けているものがあると思う。
- ・1つは、地域住民主体による組織運営を進めるための合意形成の場と時間が反映され

た、組織運営の根拠、つまり「地域づくり計画」のようなビジョンである。短期・中期・長期にわたり、誰が・いつまでに・何をするか、どのような成果が期待できるかというビジョン策定。「地域特性」事例として、島しょ部でのビジョン策定事例が紹介されているが、この点については「団体運営」での事例としても採り上げるべきと思う。

- ・もう1つは財源である。例えば横串組織では行政からの補助金の流れも重要なポイントである。縦割り組織から横串組織への移行では、所属団体の水平関係だけではなく、垂直関係にある行政からの個別的補助金が、どのように横串組織内に流れ、水平関係に移行するかという点も重要で、これから検討する新しい組織のポイントになる。
- ・以上の点から、団体運営に関するビジョン策定と、財源活用の面で工夫されている事例があれば、「団体運営」の中で採り上げるべきと思う。

(山川座長)

- ・資料の事例はどこまでが実際にある事例なのかという点、その上で特定の団体の方向性について、懇談会の場で議論する意味について事務局から説明をいただきたい。
- ・また、合意形成を行うためのビジョン作成が必要という点と、財源確保の観点が必要という点である。
- ・財源確保の観点は事例に記載されているものもある。ただ、個別事例の中に入っているため、どういう課題の解決になるのかが見えにくい状況であるとの意見とともに、団体運営のところと緊密なものではないかという示唆をいただいた。

(事務局)

- ・今後の活性化の方向性などは各地域が決めることではないかとの御意見については、まず、この各事例について、取り組んでいる地域以外の方にとってのマニュアルのようなものを目指したいという思いがあった。
- ・そのため、地域名を記載した資料で活性化の議論を検討することは、その該当の地域について議論していることになりかねないという考えから、重要なポイントなどを伝える内容とした。地域名を省略し、取組に対する支援内容を記載することで一般的な例として示したいと考えている。

(山田委員)

- ・地域名の記載がないことについて反対をしているわけではない。
- ・各事例には想定のある団体があると理解している。その団体の取組内容や課題、支援内容、成果などが記載されているが、まず各事例に記載のある「取組の方向性」は、事務局で書いたものなのか、それとも各団体が持っている方向性なのか。
- ・また、今日の場合は、事例に記載されている団体について、方向性など他に意見がないかと尋ねているということでしょうか。

(事務局)

- ・各事例について、資料は事務局で作成したが、事例の元となった団体に資料をお見せし、内容についてあらかじめ理解いただいている。
- ・本日の趣旨は委員の御経験などから追加すべきことがあればお伺いしたいということである。
- ・合意形成のための地域のビジョンが必要ではないか、行政の縦割りについて考える必要があるのではないかと、補助金などの財源確保についても整理する必要があるのではないかとといった御意見についても、各事例の議論をした後に、整理することを想定している。
- ・今回全ての事例を揃えることができなかったため分かりにくい点もあるが、次回以降整理していくものもあると御理解いただきたい。

(山川座長)

- ・今日は事例から少しヒントを得て、他地区で展開するときの手法を主に分析できればと思っている。なお、その後の見通しとしては、事務局からの説明にあったように、エッセンスを抜粋したものを別途整理してまとめるとのことである。

(杉川委員)

- ・前回も述べたが、町内会に関わる方が減り、住んでいる方も地域に根付いていない状況にある中で、事例の横串組織への転換もあるが、縦割りになっている各団体がもう少しまとまってもよいと思う。
- ・今回のテーマが地域コミュニティなので、町内会という形で地域コミュニティを残すのか、地域コミュニティをどう捉え直すのかという点は、組織の在り方を議論する上で大きな課題になると思っているので、今後の議論の懸念事項として提案したい。

(山川座長)

- ・従来の町内会を現在のまま展開する形で良いのかという点は、山田委員からも地域自治組織という点でのヒントの提供があり、その他に協同労働でグループを作ることができるという点もあるので、先ほどの久保田委員の意見と合わせて、地域コミュニティの担い手としての団体が、現在の町内会なのかという点については、次回以降早めに議論したいと思うが、事務局としてはどうか。

(事務局)

- ・御意見を踏まえ、次回以降、検討していきたいと考えている。

(山川座長)

- ・現状を分析するという点から始めているので、現在の資料となっていると推察する。
- ・次に課題2に移る。事務局より説明をお願いします。

(事務局)

～課題区分2のうち、2－①から2－⑥について説明～

(山川座長)

- ・課題の2－①から⑥は、地域の住民のつながりづくり、あるいはそれらの方の参画ということについての方向性と事例、他地区で展開する際のポイントについて気付きをいただきたい。また、できれば、事例番号を明確にした上で、意見をいただきたい。

(金月委員)

- ・地域の担い手の連携づくりについて、様々な良い実例を挙げてもらい勉強になった。
- ・山田委員からあった財源の問題に関して、この事例の中にも補助金や助成金を受けて活動しているケースがあったが、我々が地域で活動している中で、例えば初年度は100万円の補助金を受け、次年度から70万円、50万円と下がり、3年で補助が打ち切りになるため、継続したくとも、4年目からの財源について悩むことが多い。
- ・その辺りについて、市としても、継続性を持たせ、期間を長くすることを考えてもらえると、地域が取り組みやすくなるのではないかと思います。

(山川座長)

- ・市としての補助金に対する考え方、また、他の委員からも持続的に財源を得る方法についての示唆があればいただきたいがどうか。

(牛草委員)

- ・財源の話だが、補助金は、単年度、あるいは数年で終わってしまうことがあるので、どの地域団体にとっても自主財源の確保は大きな課題であると思う。
- ・今はどうしても、地域活動などはボランティアや無償でやるのが前提で、もしくは補助金は全部使い切るみたいなことになっていると思う。
- ・ただ、補助金の執行残は残していくことや、もしくは地域活動の中で収入を得たり、何かしらのサービスなどについては対価をもらうことを前提にしていかないと、持続可能性が無くなってしまおうと考えている。
- ・そういう意味で、我々は、協同労働という働き方の中で、自分たちでお金も出しつつ、地域からもお金をある程度いただくような、地域の中でお金が循環する仕組みを取り入れていくというのも一つのアイデアではないかと考えている。

(山川座長)

- ・自主財源についても、協同労働も含めて選択肢を幾つか提案できればと考えており、実際いろいろな財源確保の方法があると考えている。
- ・補助金についてもそうであるし、協賛という形も当然入ってくるので、その辺りについて各委員から知恵をいただきながら、事務局でまとめてもらえればと思う。

(久保田委員)

- ・自主財源の確保というところで、広島市全てで行っているわけではないが、どこの町内会でもやろうと思えばできるものが二つある。
- ・一つは資源ごみの回収で、民間業者と契約を結んで資源ごみを売るという方法である。
- ・もう一つは、青少協が提案してきたものだが、自動販売機を設置して売上を得る方法である。この二つは今、道が開けていると思う。

(事務局)

- ・牛草委員の意見に関連する自主財源の事例は、2－⑧や⑨に記載の協同労働の話になるが、そういった仕組みを取り入れて自主財源を確保しながら、地域課題の解決に取り組んでいる事例である。まだ2－⑧、⑨については説明できていなかったため、ここで事例として紹介させていただく。

(神谷委員)

- ・まず、2－①に関して、担い手について、町内会の役員、地域の役員の高齢化が進む中で、行事がだんだん縮小・廃止となっているのが現実的な流れではないかと思う。
- ・そうした中で、地域では、例えば安佐南区は大学などたくさんあるので、その辺りの大学生等に声掛けして、地域のイベントのスタッフなどとして協力してもらっている。
- ・人の役に立ちたいという気持ちを持つ若者は必ずいると思う。7年前の8.20の土砂災害の時も、青年がボランティアに参加したという話もよく聞いている。
- ・そういった意味では、大学生に協力してもらってイベントを行った場合や、あるいは例えば小さいもので言えば、とんどまつりなどでも、竹の切り出しなどは結構大変な作業であるため、例えば大学生にボランティアをお願いするのも必要ではないか。そうして協力してもらった場合には、行政から1日保険を適用する、あるいは、タオル1枚でもいいと思うが粗品なりを渡すことなども良いと思う。
- ・どうしても地域の中では限界があると思うので、そういった大学生などの若い力を借りることは必要である。また、大学生などにとっても、他の地域からその大学に来ている学生もたくさんいるかもしれないが、若いときに活動したことを地元の地域に帰った時に活かしていくことができるのではないかという思いもあるので、提案させてい

ただいた。

- ・また、2－⑥に関して、地域の子どもたちの夢や目標を応援ということで、郷土愛の醸成についての記載があるが、私も子どもたちに郷土愛を持って欲しいという思いは強い。
- ・そこで、郷土愛を醸成するための一つの方法として、まず自分の住んでいる地域にどんな歴史があるのかについて、子どもと親と一緒に勉強してもらいたいということで、七、八年前に取り組んだことがある。
- ・これには、地域で歴史に詳しい年配の方のグループに協力してもらった。本当はいわれある地域の歴史あるところを回った後、いろいろ見学等をする事を考えていたが、猛暑で内容を変更し、中世の頃、毛利・尼子の時代の山の出城の模型や、そういうところから出た陶器などを、広島市文化財課から借り受け、それを子どもと親と一緒に学んだ。加えて、歴史クイズを○×形式で、子どもでも楽しめるような内容で行った。
- ・なかなか継続できておらず残念であるが、このように子どもたちに郷土愛を教えることも大人の大事な役割なのではないかと考えている。

(濱本委員)

- ・この事例で紹介された2－①から⑥まではいずれも素晴らしいイベントを中心にした活動であると見たが、今、多くの地域では、コロナでイベントを中心にして地域をつなぐような行事のほとんどができなくなっている。
- ・我々の緑井地区社協では、過去、例えば、4月に運動会、8月に盆踊りを行うなど、いろいろなことを四季折々に行い、それを中心にして、地域の結束を高めてきたが、これがもう2年でできていない。これは緑井だけでなく、恐らく各委員の地域も同じような状況ではないかと思う。
- ・コロナはいつ収まるか誰にも分からない状況であり、コロナが終息してもう一度元に戻してということでは、そこまで地域が持たないのではないかと危機感を感じている。
- ・したがって、もちろんイベントを中心としてやることも大事であるが、イベントに依存し過ぎない地域活動についてそろそろ考えておかないと、コロナの状況次第で、地域が全く何もできない地域社会に戻ってしまうということが起こり得るのではないかと考えている。
- ・我々の社協でも、イベント中心から、もっと地道な地域福祉活動に転換しようということを提案したが、正直受けが良くなかった。それは、まず、楽しくない、面白みがないということ、また、長年そうやって成功体験を積み重ねてきた人たちからすると、やはり、それはまだという感じで、1枚岩になれていないというところがある。
- ・このため、イベントに頼らない地域活動の在り方をそろそろ模索しておいた方が良いということの問題提起したかった。

(山川座長)

- ・ 神谷委員から、大学生の協力についての提案があった。大学生だけではなく、よく風土と言われるが、土が町内会だとしたら、いわゆる風の力、外からの力をどれだけ入れるか、ということが言われている。例えば青年会議所や、ひろしまジン大学などいろいろな風の力があるので、そういったところとの関係性を作ることが重要だと考えている。
- ・ また、郷土愛という言葉がもし次の世代にということであれば、シビックプライドということで、一步踏み込んだ郷土愛の作り方を今回描くことも必要であると感じた。
- ・ 濱本委員の意見について、確かに今回の事例にあまり視点が入っていないが、ウィズコロナやアフターコロナの視点をしっかり入れていくことは重要だと思う。
- ・ 他の委員からも、イベントをベースに担い手育成を考えていたけれども、その方法論そのものを見直さないといけないというケースがあれば紹介いただきたい。

(坊委員)

- ・ 濱本委員の話に同感の部分があった。
- ・ 我々の地域では、8.20の災害から大学生との縁が続いており、今も大学生が毎年何かの行事に参加している。多い時には30名から40名ぐらい参加している。
- ・ そういった絆ができたことについては、地域の歴史性、あるいは、地域にある人間愛などが、彼らに何か共感するものがあったのではないかと思っている。
- ・ 郷土愛が必要ではないかということで、我々も行事を行った。歴史を知っていただくため、地域をA、B、Cコースに分け、パンフレットを作って歩いたりしていろんな知識を持ってもらうように、あるいは大人の方にも参加してもらうようにした。
- ・ そういうことが継続につながるのではないかと思うが、昨今コロナで、行事がなかなかできないということがある。
- ・ ただ、そういうこともある程度想定しておかなければならないということで、地域で例えば、山が荒れているということがあれば、災害につながるということを皆に認識してもらうために、森林の保護などをしてはどうかとか、あるいは、休耕田を活用した活動ができないかというようなことをいろいろ考えている。
- ・ それらは、コロナ禍であってもできないことではないので、そういった活動を行っている。どこの地域にも、それぞれの地域性や歴史などが様々あるので、それらのある程度踏まえながら、考えていかないとなかなか難しいという気がする。
- ・ そのため、いろいろな事例を挙げてもらっているが、それはそれでその地域は一生懸命頑張っているのもので尊重できるものだと思うが、それぞれの地域性を考えて行っていないと長続きしないのではないかと思う。

(山川座長)

- ・ 大切な視点が幾つも出てきており、今挙げられたような、地域性や地域資源、地域課題

をしっかりと認識した上で、次のステップにというようなことを次回考えていくようにしたいと思う。

(打越委員)

- ・私は、コミュニティの活性化となれば、やはり大きなテーマは安全安心なまちづくりという観点で、防災活動、防犯活動、それから福祉活動などについて地域で考え合うことが必要で、それには、地域のどの団体も参画する必要がある。
- ・研修会、講習会を行うこともあるが、やはりイベントは子どもから大人までがいろいろ参加できて地域の活性化にもなる。また、それによりコミュニティもできるということがあるが、コロナ禍の現状では非常に難しい。
- ・ただ、防災、防犯、交通安全、福祉など、その一つ一つのテーマについて地域で集まって考え、テーマによって集まる会議が違いますが、そうしていくうちに情報が地域全体で流れると考えている。また、現実には町を安全で安心して過ごしやすい街にしようという大義を作ると、それに皆の考えが集まってくるように思っているし、現実にはそれに取り組んでいる。
- ・それから、今後の対策として、特に最近、大雨の災害が多くあるため、巨大な地震や水害のシミュレーションなど行ったり、コロナの感染予防などを学ぶイベントを企画するなど、皆に防災意識を持っていただくように取り組んでいる。

(山川座長)

- ・安全安心のコミュニティを作っていくために、コロナも踏まえながら、今回の議論を進めていきたいと思う。

(高橋委員)

- ・これまでの委員の話を聞いて自分で整理したことを述べたい。
- ・まず、現在の世の中は変化が非常に大きくてスピードが早いということが、大前提としてあると思う。また、人の考え方も多様性で大きく変わってきている。
- ・そのため、昔のままの地域コミュニティだけではやっていけないという現実がいろいろなところに生じているのが現代社会であると認識している。
- ・したがってこの変化を認め、多様性も容認した上で、それぞれの対策を考えていかなざるを得ないと思う。
- ・現存する各種地域コミュニティを一方ではもちろん強化する対策が必要であるし、その他のコミュニティもそれなりにそれぞれを充実させていって、トータルとしてコミュニティを強化するという考え方、地域社会だけに限定するのではなくてトータルでコミュニティを強化するという考え方が一方で必要ではないかと感じている。
- ・したがって、この懇談会等を通じて、まず、広島市域全体で共通の強化事項、強化対策

等を模索して提示ができればいいのではないかと思います。また、個別の事案も良い事例は参考にしながら、それぞれの地域コミュニティで取り上げるものは取り上げていけばいいのではないかと考えている。

- ・そして、補助金の話があったが、区の魅力と活力向上推進事業補助金については我々も使っており、今後も使っていきたいと思うが、自主財源の部分が一つのネックである。
- ・3年間で3分の2、半分、3分の1と、3年間の区分けになっており、3年間実施するとすれば、自主財源は半分必要になる。これが大きなことをやろうとした時にはネックになることは間違いない。
- ・いろんな地域でどんどんいろんなことを今後やっていってほしいと思うが、自主財源が大きくなると、実現が難しいとなっていることもあると思う。
- ・したがって補助金のあり方も並行して検討していただく必要があると感じている。
- ・また、自分が住む地域社会に対して全く関心がないという方はまずいないと思う。基本的に、全く関係がない、関心が無い、地域社会がどうなろうと知ったことはないという人はいないはずで、何が違うかということに関心の度合いが違うだけである。
- ・大きな関心があってボランティア活動も積極的にやる人や、何か機会があれば参加しようとする人など、度合いの差がいろいろあると思うが、それを容認した上で、各度合に応じた対策対応を考えていかないと、トータルでの成果には結びつかないのではないかなと感じる。
- ・それから、コロナ禍で一堂に会する行事が難しくなっているのは事実であり、今後はいろんな対策を協議検討した上で、必ずしも一堂に会さなくてもできることも模索しながら、集まらなくてもできる対策と、集まってみんなでイベントで盛り上げることを並行するといった整理をした上で、各地域社会がこの懇談会でまとまったことを生かしてもらうことが進めばよいと考えている。

(山川座長)

- ・イベント中心、あるいは集まるということを前提にするのが今までのやり方だったとすれば、現在は逆に、もう少し地域活動の参加者を増やすチャンスだと思っている。
- ・大学生への期待についてさきほど話をいただいてありがたいと思うので、例えば、今は、安全の確保の観点で、大学から大学生に対して課外活動やアルバイトについて禁じる指針を出しており、実際に行ってイベントには参加できない状況ではあるが、オンラインであれば参加しやすい若者もいるため、そういう気持ちを汲んで、オンライン、あるいは、先ほど話にもあった草刈りなどの小さな屋外での活動を取り入れるような知恵も、今回は考えていただければと思う。

(事務局)

～課題区分3について説明～

(山川座長)

- ・地域特性の違いに応じた支援などについて事例が挙げられているが、この点を中心に、あるいはこれまでの部分を絡めた形でもよいので、御質問等をいただきたい。

(坊委員)

- ・地域特性として、中山間地の集落の再生が話題に挙げられるが、いずれにしても、リーダー、中心になってくれる人がどうしても必要ではないかと思う。
- ・若い方に参画してもらっても、リーダーがいないとどうにもならないので、リーダーの育成が重要ではないかと認識している。
- ・我々の地域では、先人によって村有林が財団化され、それを財源とした様々な団体への支援がなされているため、これを活用させてもらってリーダーの育成に取り組んでいる。いつの時代も、リーダーとリーダーを支える人がいないと、いい話であってもなかなか前に進まないと思う。
- ・課題3の中で我々の地区の事例も挙げてもらっているが、そこに携わるリーダーがしっかりと認識をして、いろんな人と話をしてそれを進めている。
- ・リーダーの育成には、いろんな人が関わって育てていくという形でないとなかなか進まないのではないかと思う。そうすると、中山間地の集落の再生などは、時間がかかるものであって、喫緊の課題とはいいながらも、その辺りを日ごろから行政などにもある程度支援してもらうことによってリーダーの育成が進むのではないかと思う。
- ・今は団塊世代が比較的元気であるため、いろいろと活動してもらっているが、団塊世代が卒業すると、担い手が少なくなってくると思う。そこで最近は、学校などでも地域の担い手の確保などの観点から、少しでも郷土を見直そうという活動がなされており、少しずつではあるが、PTAや子ども会育成会、体協などの中からそういう方々が、出てきつつあるので、やはり地道な活動によるリーダー育成が必要だと感じる。

(山川座長)

- ・リーダー、さらには、リーダーを支える人材の育成についてのお考えであった。ほかに御意見があればいただきたい。

(山田委員)

- ・今回の事例紹介は、住宅団地の高齢化や中山間地、島しょ部など、多様な地域特性を持つ広島市ならではの作りとなっていて有効であると思うが、課題2「活動の担い手」で紹介された事例⑨「マンションが多い地区における町内会の活性化に向けて」は、課題

3「地域特性」のに移行した方がよいと思う。⑧⑨はいずれも協同労働を紹介する事例であっても、⑧はあくまでも町内会を介しての仕組みであり、⑨は町内会単体では課題解決が難しいという紹介なので混乱する。むしろ移行して、中区などのマンションが林立し、市中心部の町内会の限界性を感じるようなところの事例として、協同労働が必要であるというストーリーはとても重要だと思う。

- ・そのため、課題区分2-⑧で、「活動の担い手」の事例として協同労働を紹介しておいて、都市部という地域特性における町内会活性化の課題解決の手法として協同労働を紹介する方がよいのではないかと感じた。検討いただければと思う。

(山川座長)

- ・住宅団地やマンションが立ち並ぶ状況は広島の特徴であるので、その辺りの事例を課題区分3「地域特性」に入れるよう、事務局で検討してもらいたい

(金月委員)

- ・先ほどから担い手、それから若い人をいかに取り入れるかという話があるが、自分は地元の様々な会の役員に就いてもらうようお願いに行くことがある。
- ・その際、忙しいから手伝いできないというような話をされるが、自分の経験から、忙しい人ほど仕事が早く、いい知恵を出されると認識しているので、自分は忙しい人をお願いしていることを伝えている。すると、引き受けてもらえることが多い。
- ・また、我々の地域でも、実際に若い方に地域のお世話をしてもらっているが、日曜祭日は会社も休みということでそれはそれでいいが、ウィークデーもいろんな行事に出てもらっている。それはやはり、本人、それから、勤務先にいかに理解してもらうか、理解してもらえるように話をするかということが大事ではないかと感じる。
- ・自分は昭和61年から地域のお世話をしており、今もまだ現役で会社勤めをしているが、この間、経営者から非常に高い理解を得て頑張っているところであり、そういうことも是非また参考にしていただきたい。

(山川座長)

- ・今回の資料にもそういった事例が含まれていたが、地域の中には企業・会社等もあるわけで、そうした企業・会社で、もしくは、地域外のところとなると、それは公助のレベルで企業の理解を求めるといようなことも必要であるということ提案いただいたものと思う。

(濱本委員)

- ・坊委員の話を聞いて少し思ったことがあるが、地域活動のリーダーシップの大切さ、リーダーの大切さは言われるとおりで、今日の資料の団体運営のところにも関連する

が、横串の地域団体を作るというのがあった。

- ・行政も部局横断の事業でよくこの手法を使うが、率直に言って、あまり上手くいった例はないのではないかと思う。なぜそうかと言うと、横串を刺すことによって皆が同じように関わることになり、それぞれの責任感が薄くなるという方向に流れやすい。
- ・もしこの方法を採用するのであれば、中心になる事務局や、中心になって引っ張っていく組織がどこかということをはっきりさせておく必要がある。私の地域での経験の中でも、皆が同じようなお客様の意識に関わって、結局物事が上手く進まないという例があった。
- ・また、横串を引っ張る責任ある組織はどこかということをはっきり確認しておくことで、リーダーシップもそういう中から生まれてくると思う。
- ・皆が同じようにおみこしを担ぐということだけでは上手くいかず、おみこしを引っ張る人がいるのではないかと思った。

（山川座長）

- ・人材の育成から配置というところまで、もう少し考えていかないといけない課題があると思う。
- ・個人的には地域の中には、コアとなるリーダーがいるが、リーダーだけが担い手ではなく、その周辺に支え手の人たちがおり、関心はあるがどこから入っていいかわからないとか、時間がないからいけないという層が実は多くいる気がしている。さらにその向こう側に無関心層がいると思うので、1層目、2層目のリーダーや支え手の育成も必要であるし、関心はあるがどこから入っていいかわからないという3層目に対しての巻き込み方や、対話の仕方もこれから必要ではないかと思っている。
- ・今後、それらに対しての知恵を少しいただければと思っている。

（事務局）

～課題区分4「活動内容」について説明

（山川座長）

- ・活動内容であるため、拠点から財源、ウィズコロナ、防災・防犯まで、さまざま入っている。御質問、御意見があればいただきたい。

（久保田委員）

- ・佐伯区の町内会連合会で、町内会活動において、どうしても必要な活動だけに絞るとすれば何が残るか議論した際に、防犯と防災が残った。
- ・そこで、少し乱暴であるが、それほど関心が高いのであれば、何をしているかわかりにくいという意見が良く出る町内会について、名称を防災会・防犯会に改名してみては

どうかという意見が出た。

- ・確かに防災会・防犯会であれば、目的がはっきりしている団体になり、何をしているかという説明はほとんど要らなくなるため、ある意味では町内会という組織を生き残らせる一つのやり方としてあるのかなといった笑い話になった。
- ・最終的には打越委員が言われたような形で、やはり防犯、防災、交通安全がどうしても必要なものになるのだと思う。

(山川座長)

- ・本日既に出た、町内会が何を担うのかという論点とも関連してくると思うので、また次回の議論の中心にしたいと考えている。

(牛草委員)

- ・行政による活動費などの支援があるが、継続的な財源確保などに関してお願いしたいのは、行政から地域団体に仕事を出すこと、例えば、公園管理などには一定程度のお金が使われているはずであり、それらを自治会・町内会に仕事として出してはどうか。そうするとそこに人も集まるし、地域活動も一緒にその中で行われるような形をとっていけるのではないかなと思う。
- ・また、この資料の活動内容の中に拠点づくりなどもあるが、自治会などと上手く連携し、できれば自治会が地域の拠点を運営するような形をとることで、お金が上手く回っていくのではないかと考えている。
- ・今後その辺りも議論できればと考えている。

(山川座長)

- ・地域が担うとより良い形になる部分について、しっかりと経費を当てることを考えてはどうかという提案をいただいたものと認識している。

(山川座長)

- ・本日は時間となったので、ここで区切らせていただく。

(以上)